

# 自治大卒業生の声

自治大学校卒業生

(基本法制研修B第4期、第1部・第2部特別課程第38期)

愛知県西尾市 福井 美保

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

## 1 はじめに

私は、令和元年10月開講の基本法制研修Bと令和2年1月開講の第1部・第2部特別課程を受講させていただいた。

研修受講前、先に派遣された職場の先輩から研修中の様子を聞いたり、激励を受けたりしたが、「長期間職場を離れて業務に支障はないだろうか」、「初対面の研修生と上手くやっていけるだろうか」、「研修課題をこなせるだろうか」という不安な気持ちを抱えたまま基本法制研修Bの初日を迎えた。しかし、慌ただしい中にも充実した2週間の研修生活の中で、いつしか不安は前向きな気持ちに切り替わっていた。そして、年が明けて第1部・第2部特別課程受講のため自治大学校に到着した際には、再び自治大学校で学べる喜び、全国から集まる研修生という仲間と出会える期待で胸が膨らんでいた。

令和2年2月21日、全ての課程を修了し、無事に卒業することができた。研修を終えた今、精一杯やり遂げた達成感、このような学びの機会を与えていただいたことへの感謝の気持ちでいっぱいである。そして、何より研修を通じて出会えた多くの仲間を支えられ、今があることを心から実感している。

## 2 基本法制研修B

基本法制研修Bでは、「行政法」「民法」「地方税財政制度」「地方自治制度」及び「地方公務員制度」の5課目について講義形式で

学んだ。2週間という短期間で広範囲を学ぶためどんどん講義が進んでいくが、要点が整理されたテキストをもとに過去の事例や最近のトレンドを含めた講師の説明は興味深く、新たな知識の習得につながった。

「行政法」「地方自治制度」「地方公務員制度」の3課目については、効果測定があった。出題範囲が広く苦勞したが、寄宿舎の談話室に同じフロアの研修生が集まり、自分一人では難しい問題について勉強会を開催したり、研修生が自らまとめた学習資料を研修生同士で共有したりと、励まし合いながら効果測定に臨むことができた。

「地方税財政制度」については、日本の財政の現状や制度改正の動向など「マクロの地方財政」について講義で学んだ。一方、各自治体の財政状況や財政運営のあり方という「ミクロの地方財政」については、自分の自治体の財政関係資料を収集・分析し、レポートを作成することにより理解を深めることとなっていた。財政担当の経験のない自分にとっては、このレポート作成が頭を悩ませた。しかし、これが自分の自治体の財政状況について考える良い機会となり、財政担当の経験がある同期の研修生にアドバイスをもらいながらレポートを書き終える頃には、もっと財政全体について深く知りたいと思うようになっていた。

特別課程の受講要件として、「基本法制研修の受講」又は「e-ラーニング」による自宅等での事前学習が選択制となっているが、私は「基本法制研修の受講」をお勧めしたい。基本法制研修受講者であっても「e-ラーニング」による学習ができ、また、何より研修

生同士が講義以外の場でも学び合うことで、より深い理解と研修生同士の絆が深まる良い機会だからである。

### 3 第1部・第2部特別課程

この特別課程は、「講義形式による研修科目」「演習班に分かれて行うテキスト型事例演習とディベート型演習」「特定政策課題レポートの作成」の3要素で構成されている。

講義形式の研修科目は、「総合教養科目」「政策形成能力を高めるための公共政策科目」「地方公共団体を巡る最新の話題」で構成され、最新の地方自治体を取り巻く現状や課題について、第一線で活躍されている講師陣から話を聞くことができる贅沢な時間であった。正しい情報をもとに、常に先をみて論理的に考えることの必要性など、自分にない視点を学ぶことができた。

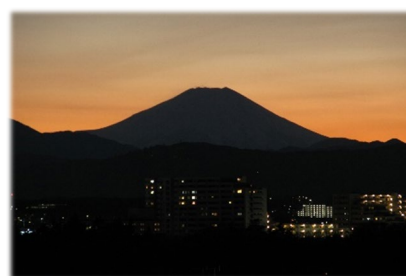
演習班に分かれて行うテキスト型事例演習とディベート型演習は、問題発見能力、政策立案能力、プレゼンテーション能力を養うことがねらいとなっている。テキスト型事例演習には事前課題があり、3冊の課題研究用事例演習テキストが事前に送付されてきた。テキストを熟読し、自分の自治体の現状や課題を調べた上で、自分の考えをA4用紙2枚程度の検討事項ペーパーにまとめなければならず、どのテーマも業務として関わったことがなく戸惑ったが、やればそれだけ知識が増えると気持ちを切り替えて取り組んだ。この事例検討ペーパーをもとに、4人程度の小グループで議論を重ねて意見を取りまとめ、さらに4つの小グループで構成される演習グループで発表し、議論を深めた。全国各地から研修生が集まっているため、同じテーマであっても自治体によって現状や課題は様々である。課題に対する考え方や課題解決へのアプローチの仕方など、同期の研修生の多角的な視点での捉え方を学ぶことができ、多くの刺激

を受けた。これらの演習を通じて、今の自分に何が足りないのか再認識することができ、今後起こり得る様々な課題に対し、前向きに取り組んでいく覚悟ができたように思う。

特定政策課題レポートは、8,000字から12,000字程度の文字数が指定されていたが、このレポート作成が一番苦勞した。というのも、限られた時間の中で、全国的な動向の把握、自分の所属する自治体の現状の把握と課題の発見、それに関する情報収集と分析を行った上で、論点がずれないように整理しながら課題解決に向けた提言をしなければならない。時間に追われ焦らないためにも、テーマの選定や情報収集、構成をイメージするなど、入校前にできるだけ準備しておくことを強くお勧めする。

### 4 研修を終えて

「何かを得ているときは同時に何かを失っているから時間を大切に」、「負荷がかからないと伸びない超回復という概念」という佐々木校長の言葉と、「向き、不向きより、前向きに」という同期の研修生の言葉。これらの言葉と苦樂を共にした仲間を支えられ、自分に負荷をかけることをどこかで楽しみながら、全力で課題に向き合うことができた。そして、新しい知識やスキル、自己の意識改革だけでなく、人と人とのつながりの大切さを学び、今後の公務員生活にとって大きな財産となったかけがえのない仲間達と出会うことができた。自治大学校は、そんな素晴らしい経験ができる場所。私は、この仲間達と過ごした寄宿舎の部屋から眺めた富士山を生涯忘れることはないだろう。



(寄宿舎からの富士)